

第1回つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議時・会議後の主な意見及び今後の対応

平成27年7月16日現在

No	項目	意見概要・ポイント	対応方針(事務局の考え)
1	社会増と自然増について	人口増は大きく分けると社会増と自然増で構成されるが、そのどちらに力点を置いて考えていくのか。	両方重要であると考えており、どちらについても施策等に力を入れていく予定である。
2	重要業績評価指標 (KPI)	KPIの具体的な数値は今後示されるのか。	庁内のワーキンググループ・専門部会等で議論を行い、個別施策ごとの具体的な数字についてお示しする予定。
3	人口のピークについて	人口のピークを後ろにずらすことや合計特殊出生率等について、具体的な数値目標等は示されるのか。	人口ビジョンにおいて具体的な数値や方針等をお示したいと考えている。
4		2035年の人口のピーク以降はマイナスになるという見込みでやるのではなく、プラスにしていくには何をすべきかを考えるべきではないのか。	
5	人口ビジョンについて	人口ビジョンはどこにポイントを置くのか、2060年を目標としているのか。	国や県と同じく、2060年を目標として将来ビジョン等を定める予定。
6	人口ビジョンについて(会議後)	合計特殊出生率の目標を立てる際は、人口を維持するために必要な2以上を目指して欲しい。	究極的には2以上を目指すことが必要であると考えている。
7	総合戦略について	総合戦略は5年間の策定となるのか。	国や県と同じく、5年間の施策として総合戦略を策定する予定。
8	総合戦略について(会議後)	空き家バンク、二地域居住について等、今後の検討課題としてはどうか。	総合戦略に記載できるよう、検討させていただきたい。
9		(1)(イ)の欄にぜひ「IT活用でスマートワークの街つくば」を入れていただきたい。研究学園都市に住む女性活用として、ワークライフバランスを実現し、地域活性化と経済への貢献を果たせると考えている。	
10		ワークライフバランスの考え方を総合戦略の中に入れていただきたい。こどもを2人目・3人目と考える上で、男性の育児参加は不可欠である。	
11		教員のICT活用能力の向上、ICT支援員の育成をつくばスタイルとして創出できないのか。総合教育研究所と協働して、全国モデルとなるような育成の仕組みを今回の戦略骨子に追加してほしいと思うがいかがか。	
12		東京圏に隣接するという地勢的な位置づけを考え、「ダム」を築くためにも近隣都市との連携の中でつくば市がどのような役割を果たすのかを積極的に示す必要があると思う。その意味では、定住人口の統計だけではなく、昼間の「交流人口」についても分析・検討する必要があると思う。	

13		高校生アンケートを作成するときは、高校生に参加してもらい作成したほうが、大人目線にならずによりアンケートができる。また、大学生のアンケートは、セキショウキャリアプラスが大学の就職セミナーを受託して実施しており、その際アンケート配布することもできるので活用してもらいたい。	御指摘を受け、高校生に事前に回答してもらい、意見をもとに改良を行った。また、大学生については今後の参考にさせていただきたい。
14	アンケートについて（会議後）	高校・大学卒業予定者の進路動向調査について、つくば市在住で近隣の高校へ進学されている方は対象に含まないのか。把握が難しいのか。	市外に通学している高校生・大学生の情報はどの機関でも把握していないため、対象とすることは難しいと考えている。
15		市民を対象としたアンケートではWEB回答は行わないのか。多くの方に回答がもらえる手段として積極的に採用すべき。	統計上、無作為抽出した方を対象とするため、配布は郵送である必要があり、回答については居住地等の属性の正確な把握のため同じく郵送でお送りいただいている。WEB回答については、技術的な課題もあるため、今後の検討とさせていただきたい。
16	アンケートの対象者について	高校生1,350人、大学生3,000人と、市民の2,400人の倍近い。生産年齢のアンケートの方が少ないことはいかがなものか。	大学生は回収率が低く、1～2割程度と見込んでおり、回収予定数で比較すれば市民の方が多くなる見込みであるが、市民の対象を3,000人に増加して対応したい。
17	大学生等の若者について	筑波大学を始めとした3つの大学があり、若い人が多いという印象があるが、実際に地方から来る大学生にとって住みたい街になっているのかどうか、その辺の意識はいかがか。	20代の転出数が突出して多いことから、十分に引きとどめられているとは言い難い状況であると認識している。高校・大学卒業予定の方にアンケートを実施しており、その結果をもとに施策等を検討する予定である。
18	つくば市の人口動向について	つくば市の人口動向について、県と比較した独自の動向であるとか、つくば市の背景や今後の変化等はどのように捉えているのか。そのあたりが分かれば議論がしやすい。	現在行っている人口動向分析により、議論のポイント等をお示ししたいと考えている。
19		人口が増加した2005年には何があったのか、今後もこのようなことが期待できるのか等因子や条件等があれば議論がしやすい。	
20	東京一極集中の是正	東京一極集中について、茨城県との考え方に相違があるのではないか。	東京一極集中の是正は国が示しているものであり、今後過度な集中が加速度的に進むことを是正することが主眼であり、東京の集積そのものを否定するものではない。そのため、茨城県も同じ方向性であると認識している。

21	部会の設置について	庁内の専門部会と同様に、有識者会議にも部会を設置した方がよい。その方がより具体的な議論ができるのではないかと。	
22		部会に分けてテーマを絞った方が運営しやすい。	
23	部会の設置について（会議後）	会議の円滑な進行のためにも、今後は部会と全体会議を併用していくことが効果的である。	御指摘を受け、2つの部会を設置する予定。部会の構成について、現在調整中である。 (1) (3)しごとづくり・子育て部会、(2) (4)定住促進・拠点整備部会
24		総勢42名の全体会議では意見集約は難しく、部会に分けた方がよい。	
25		別の方も言われていたが、なるべく分科会などで人数を絞り、実効性のある会議となることを希望する。	
26	会議の開催方法について（会議後）	会議は出席者全員のものであり、会議時間に見合った人数にすべきと思う。	
27	報道機関の活用（会議後）	まち・ひと・しごと創生について、参加している報道各社を広報媒体として活用していただきたい。	
28	未来構想との関係について	「しごとをつくり、安心して働ける環境をつくる」について、昨年度策定した「つくば市未来構想」には記載がないが、どの程度力を入れていくのか。	「つくば市未来構想」は総合計画の基本構想に代わるもので、市の施策の指針となるものであるため、具体的なものについては記載されていないが、総合戦略についてはしごとづくりについて具体的に盛り込んでいきたいと考えている。
29	高齢者の医療・健康づくりについて	「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」とあるが、高齢化が進んでいることもあり、高齢者の医療や健康づくりはどのように捉えているのか。	重要な視点であると考えており、昨年度策定した戦略プランには記載されていることから、そちらとの整理が必要であると考えている。
30		医療・健康等はつくば市の魅力として重要な視点であり、若い世代だけでなく高齢者もつくばに住みたくなることは重要である。	
31	その他（会議後）	第1回ということで焦点が見えにくい部分があったが、今後、回を重ねるにつれて、色々と活発な討議ができるようになることを期待する。	第2回以降は作業等が進行するため、具体的な議論のポイントをお示ししたいと考えている。
32	その他（会議後）	第2回、第3回については、つくば市が検討している具体的な施策を盛り込んだ会議資料があればより議論が深まるものと推察する。	
33	その他（会議後）	事前に下調べして頭の整理をするために、早めの資料提供を願いたい。	